

教場をみんなで元気にしよう！

会長 鈴木 精成

新年明けましておめでとうございます。ご家族おそろいにて健やかな新春を迎えられたことと存じます。

「コロナ禍」三年目の新春ですが、私たち千代田の吟友にとって新たな希望を抱く年の幕開けです。

昨年十月二十八日には「千代田岳精会創立三十

岳精流日本吟院

ちよあ

第 70 号

令和 5 年 1 月
千代田岳精会弘報

令和五年岳精流指標

感恩

五周年の集いを一年遅れではありましたが盛会に開催することができました。企画から実行に向けて、一年間の準備期間を経ての開催でしたが、萩原龍晴委員長をリーダーとしてスタッフ皆さんの結束と、全会員の協力による運営は見事でした。吟詠内容も、困難な条件を克服しての練習の成果が大いに発揮されたものでした。

当日ご臨席いただいた横山精真宗家、横山龍精宗嗣、家吉精雄幹事長、渡精華副幹事長・指導本部長の各先生からも高い評価をいただくことができました。

当日は、お誘いにより十名ほどの見学参加のお客様がありました。そのお一人からのメッセージの一部はこうです。「Kさんの前傾姿勢での吟詠は迫力満点でした。・・・詩吟愛好家の皆さんの舞台を見ていると、不思議にパワーを戴いたというか出演者の熱く真剣な振る舞いに感動すら覚えました。」嬉しいお話です。

迎えた令和五年は、私たちにとって一層の明るさと活気に満ちた年でありたいと思います。活発な教場活動を通じて吟楽の輪が一層広がることを願っています。

今年の会の計画を次の通り樹てました。

○年間スローガン

吟友(とも)呼び 声かけ 元気な教場を！

大一步「四〇」（四十周年）へ！

○取組み事項

一、「教場計画」をつくり、実現にみんなで取り組む

・会員増強・友呼びの推進

・教場研修活動の充実

「対面」「ズーム」方式活用

二、集合理修会の積極開催

・「幹部研修会」の定例開催

・「層別研修会」の開催

・「女子部研修会」の開催

三、情報の幅広い伝達を図る

・「千代田ホームページ」の充実と活用推進

教場活動を通じて詩吟を楽しみ、詩を学ぶ日常、吟友との固い絆の醸成、これこそ私たちが大事にする宝です。自分たちの教場をもっともっと活発な交流の場とするよう、全員で取り組みましょう。恒例の「昇伝審査会」も四月開催を予定しています。しっかりと準備ください。吟剣詩舞道のコンクールも間近です。参加の皆さんの健吟を祈ります。

令和五年の岳精流指標は「感恩」です。この二字をしっかりと噛みしめましょう。



千代田岳精会 創立三十五周年の集い

コロナ感染の蔓延は社会全体に大きな影響があり人が集まる行事等は自粛状態が続くなか、千代田でも令和三年開催が予定された「三十五周年記念吟道大会」開催が全く見通せない状態が続きました。同時期に周年大会となった多摩岳精会、六郷岳精会、大村岳精会では感染リスクの対策を講じながら内容に工夫を凝らして開催されています。

当会では企画委員会、実行委員会で「千代田岳精会創立三十五周年の集い」感染予防対策に意見を出し合いながら一年間の検討を重ねて、十月二十八日（金）タワーホール船堀で横山精真宗家、横山龍精宗嗣、家吉精雄幹事長、渡精華副幹事長、指導本部長をご来賓に迎え、会員二百余名の参加で開催され心配された事故もなく終了しました。委員の皆さんご苦労さま、有難う。



開始の吟礼（太田副会長）



構成吟、静御前（詩舞;小谷野弘彩）



構成吟、本能寺（剣舞;松尾千壮）



左のQRコードから、スマホで千代田ホームページの動画をご覧ください。

二つ目は、今までの大会では役員と構成吟の伴奏者以外の一般会員は大人数の教場合吟一題で終わりでした。今回は、自分達の吟を舞台の上で披露できたと感じられるような三人から五人の「小グループで参加させて下さい」というものでした。無茶だと思いましたが。三〇〇人を三人のグループに分けると百組が必要になります。しかし

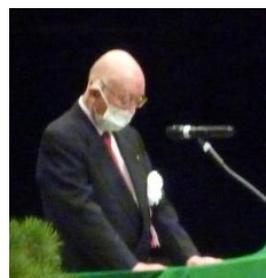
大変なことが起こった年でしたが「創立三十五周年の集い」が無事予定通り終了できましたこと、担当に当たったそれぞれの方たちの類まれなるご努力の結果と深く深くお礼申し上げます。計画開始時点から思いもかけない申し入れが続きました。その一つ目が『構成吟をやりたい』でした。事前検討会で会員の皆さんに出したアンケート結果では「予算も無い事だし、構成吟は不要」となっていたのに…。

「創立三十五周年の集い」が終わって

実行委員長補佐 犬飼 龍勇



横山精真宗家
ご祝辞



鈴木精成会長
お礼の言葉

記念大会ではないので、型にはまらない楽しい会
に出来るカモ：という期待感も湧いてきます。し
かしそれに加えてのコロナ禍です。全員集まって
計画を練っていくなど出来ない相談でした。

その為にはキチンとしたシナリオを作り、計画
の段階から確実に時間内に収まる方法を探して
行こう。そしてそのシナリオは常に最新の変更内
容をフォローし続けておくこと、それしかない！
まず当日までにしなければならぬ全項目を

盛り込んだ工程表を担当者が分かる形式で作
り、その上で工程表どおりの手順で、一吟毎の詳細を
シナリオにまとめて行こう。このシナリオを毎
回教場や担当者に配布し、内容を再確認してもら
い、名前の漢字、昇伝審査後の雅号の変更、練習
中に出てきた本数や伴奏曲の変更要望などもそ
の都度報告してもらい、シナリオの精度を高めて
行けば何とかなるはずだ！シナリオだ。

後半で一番時間のかかるプログラムの作成も、
シナリオから自動的に吟題、本数、出吟者名など
が飛んでくるプログラムを作っておけば、格段に
時間短縮できるはずだ。シナリオの精度が高けれ
ばチェックも必要ないからだ。無理かもしれない。
どこかに落とし穴が待ち受けていて大失敗で終
わるかもしれない！全ては俺の力不足の所為だ
から・・・

オー 大成功でした。

当日は舞台の横で仲間が手順よく粛々と仕事
をこなして行くのを見、一吟ごと予定時間との差
を記録するだけが私の仕事でした。

これは、舞台・会場・司会・音響照明・プログ

ラム等々、各担当者全員が、それぞれの係として
やらねばならないことに精通しており、シナリオ
を見ただけで自分がやるべき準備に入っていけ
るプロだったからに他なりません。
前日に、舞台上で準備することも出来ないよう
な状況でしたが、朝八時には担当者が集合してお
り、会の途中にアクシデントがあっても、平然と
会を進め、予定通り四時半にはゴミ一つ残さず会
場を後にしておりました。
千代田岳精会の底力に万歳です。

「創立三十五周年の集い」を終えて

構成吟担当 副会長 花山 精櫻

新宿閉鎖と三年以上続くコロナ。折角詩吟を習
いながら充分声を出すことも、聴いてもらえる機
会も少ない中、昨年から一年延期になった「創立
三十五周年の集い」と銘打って開催が企画されま
した。

会長のご理解のもと会員一人一人が主役の「一
人二回舞台に立つ」を目標に計画が進められ、総
勢二五〇人余をどのようにしたら、そのようなこ
とが出来たのだろうか？

まず、一吟目は通常の教場吟を換えて全員参加
のブロック吟とし、それを構成吟とする。

二吟目は二人以上五人までの連吟か合吟です。萩
原委員長のリリーダースリップのもと各時間の配分
が見事に決まっていきました。

終わってみて、常に一緒でない人達との合吟、
また色々な都合で思うように練習も出来なかつ

たかも知れません。でも、私達全員が一人一人、
一所懸命吟じ「三十五周年の集い」に参加したと
いう思いが感じられたのではないのでしょうか？

最後に自分の出番以外に会場や連絡、音響、舞
台、お弁当、受付接待、司会他々を一条の乱れも
なく黙々と受持ちの仕事を見事にこなして頂き、
事故もなく記念すべき会が終了いたしました。
次の四十周年に向かい、さらに元気に精進して、
また一堂に集まりたいと思います。
本当にありがとうございました。

岳精流 総本部人事

◆令和四年九月一日付

・指導本部長 徳本 龍治

千代田岳精会人事

◆令和四年八月一日付

・新宿支部教場 副教場長 石井 寅山

◆令和四年十二月一日付

・千吟会リーダー 平井 武山

◆令和五年一月一日付

・副会長 菟場 龍一

・監査役 八田 龍仁

・会長補佐 橋本 淳風

・会長補佐 中内 龍博

同 片山 寿風

・弘報部門リーダー 和田 之山

同顧問 八田 龍仁

副会長を拝命しました

丸の内支部教場長 菟場 龍一

この度、令和五年一月一日付けで千代田岳精会の副会長を拝命しました。微力ではございますが、千代田岳精会のみならずの発展と、体制の充実、また「会員の増強」に頑張りたいと思います。皆様のご指導、ご支援の程、宜しくお願い致します。

千吟会の新リーダーとしてご挨拶

志茂教場 平井 武山

この度、中内龍博先生の後任として、図らずも千吟会運営委員のリーダーを受けることになりました。志茂教場の平井武山と申します。長年、千吟会発展の為に尽力下さった中内先生が吟詠とコンダクターの両方に卓越した力を有されていたのに対し、私は特にコンダクターが出来ず、本来、受ける資格は無いのですが、コンダクター伴奏に関し、加藤有風、山崎楊風両先生が快く受けてくださいましたので私は全体のまとめ役として受けさせて戴くことに致しました。大黒柱である会長の直接の熱血ご指導は代わりありませんので、傍の余計な心配は無用かもしれません。いずれにしても会長の「ご指導が円滑に進むよう、新体制一同頑張ります。皆様、強力なサポートよろしくお願い致します。

弘報部門リーダーを拝命しました

新陵副教場長 和田 之山

八田龍仁先生の後任として弘報部門リーダーを拝命しました。誰もが主役として山あり谷ありの日々を詩吟と共に楽しんで行ければと思っております。様々な機会に寄稿をお願いすることも、またお願いしなくても、随時投稿いただくことがあるかと思えます。日頃の想いを存分に表現し、元気で活発な交流の場として「ちよだ」の発展に貢献できれば幸いです。

よろしくご支援お願い申し上げます。

秋の昇伝審査

三十三名が受験

師範及び奥伝以上の審査が文化の日十一月三日に「かわさき保育会館」で開催され、千代田から三十三名の会員が受験しました。

内訳は皆伝五名、八段四名、七段七名、奥伝七名、奥伝師範六名（七段と重複受験）準師範十名となっております。

合格おめでとうございます。

皆伝

菟場 龍一（丸の内支部）

宮川 龍丞（神田 教場）

松尾 龍瑞（ハザマ支部）

犬飼 龍勇（同）

田村 龍蘭（みもぎ世田谷）

奥伝

森坂 雄風（清水 教場）

湯浅 和風（中野 教場）

堀田 宣風（表参道教場）

伊藤 環風（ハザマ支部）

宮永 明風（同）

三島 寿風（同）

宇田川 静風（新宿第三教場）

武藤 光風（桜ヶ丘教場）

藤村 恵風（永山 教場）

宮野 秀風（東陽町支部）

細川 修風（清水 教場）

櫻田 謙風（石神井教場）

坂下 光風（新宿第二教場）

前田 春山（丸の内支部）

坪川 稔山（同）

與座 美山（神楽坂教場）

金井 俊山（中野 教場）

宮野 信山（同）

神田 恒山（ハザマ支部）

青木 憲山（新陵 教場）

滋野 彦山（みなどみらい）

石井 寅山（新宿 支部）

土居 佳山（みもぎ世田谷）

皆伝合格者

皆伝審査

神田教場副教場長 宮川 龍丞

十一月三日、皆伝審査に臨みました。宗家より課題吟のうちの「滝山城懐古」を指定され、拙

いながら精一杯吟じました。審査終了後、返して頂いた詩吟習得手帳に宗家の字で「吟調に味わいあり、真正面に向かう好感あり」と書いてありました。

私は、今は亡き林精吾先生の吟に魅せられて岳精会に入会し、何とかして林先生の味わいある吟に近づきたいと頑張ってきました。なかなか林先生には近づけません、これからも真面目に詩吟に向かい合い、龍の雅号を恥ずかしめないよう精進していこうと思っています。

皆伝を受審して

ハザマ支部教場 松尾 龍瑞

平成十九年、千代田岳精会の「剣詩舞研修」創設のお手伝いをご縁に入会してからはや十五年、まだ先のことだと思っていた皆伝を先日受審しました。

詩吟と剣詩舞の二足の草鞋を履いてここまで来ました、これも明るく楽しい教場の雰囲気と良き先輩・仲間にも恵まれたことが一番幸甚だったと思います。詩吟は勿論のこと、剣詩舞も教場の多大なご支援を賜り、千代田岳精会の皆様に育てられたという実感があります。改めてお礼申し上げます。

宗家の審査では「滝山城懐古」を指定され、宗嗣の伴奏で緊張しながらも無事吟じました。今後は相応の自覚と責任を感じつつ、剣詩舞指導の立場から詩吟の魂を揺さぶる魅力などの表現を追求し、吟者にも伝えていきたい。

皆伝審査を受審して

丸の内支部教場長 菟場 龍一

秋も深まる十一月三日、晴天に恵まれ審査会場へと向かいました。会場へ到着し、緊張した雰囲気の中、席に着きました。開始時となり吟礼が始まり、宗家の挨拶で「礼に始まり礼に終わる」又「吟は伝導伝達である」等吟の大切さを改めて学びました。

早いもので入会してから十五年が過ぎ、皆伝審査を受けることになりました。その間色々貴重な経験をさせて頂きました。

今後は皆伝という雅号に恥じないように、吟友を大切にし、又吟友を増やし「真善美」の精神を忘れることなく、詩吟を人生の友として精進する所存です。

今後ともご指導の程、よろしくお願い致します。

皆伝を拝命

ハザマ支部教場副教場長 犬飼 龍勇

昔から免許皆伝という四字熟語はありました。技術等の奥義を師匠から弟子に残らず、皆伝えたという意味です。技術習得の最上級ランクを示す言葉でした。ただ有頂天にならず気をつけねばならないことがあります。

師匠は伝えただけで、弟子が皆覚え、使いこなせるようになったことを保証してくれているものではないということです。

皆伝という資格を名乗ることを許されました。

その資格の重さに耐えられる様、精進し、資格の名に相応しい技術の習得に今以上に努めねばならないことを肝に銘じ、忘れない様に励んでまいり所存です。



奥伝合格者

学びながら伝達する

表参道教場 堀田 宣風

奥伝の昇伝審査を受け雅号「風」を賜り喜んでおります。

宗家のお話を思い出しております。学びながら伝道、伝達する。自分も学ぶ立場であり、一緒に学ぶ心構えが求められている、これからの教場運営に生かしていきます。

吟を始めた頃を思い出します。「ゆり止め」「ゆり流し」岳精流の基本など全く理解できず、勝手に大きな声で吟じておりました。その私を指導して下さった先輩諸氏、同僚、皆様のお陰で成長出来た次第です。全ての方々に感謝です。

吟ずることは健康にも良く、更に歴史を学ぶ機会が増えました、これからも精進してまいります。

楽しく詩吟が出来る

ハザマ支部教場 三島 寿風

詩吟については在職した会社の社長が詩吟、剣舞について造詣が深く、知ってはいたが自分自身がその道に入るとは思ってもいなかった。先輩達の勧誘で参加することとなった。それが奥伝審査にて「風」となるまでとなったのだから感慨深いものが一人である。

好きな有名作者の詩には感動しており、また楽しく詩吟が出来ることが幸せである。

奥伝を受審して

清水教場副教場長 森坂 雄風

平成二十三年十月に清水教場に入会して十二年が過ぎ、令和四年の文化の日に奥伝を受審させて頂きました。お陰さまで奥伝「雄風」の雅号を頂くことが出来、これまでご指導戴いた先生方にお礼と感謝を申し上げる次第です。

審査の当日は緊張感があり、絶句「逸題」を無事に吟ずることが出来、審査の先生から習得手帳に「頑張ってください！」とのコメントが書いてありました。

これからも「正しい発声・正しい音程・正しいアクセント・的確な詩心表現・礼節をわきまえた態度」をしっかり学ばせてもらい、健康に留意して楽しく吟道に励んでいきたいと思っています。

奥伝を戴いた喜び

ハザマ支部教場副教場長 宮永 明風

私が入会した年は、東日本大震災があり心がずさんでいた年です。

その年の六月にハザマ社友会の集いがあり諸先輩達が壇上で詩吟を披露しているのを聴いていたとき、ある先輩に誘われて入会することになりました。

一つの吟題を皆で勉強しているのに感心しました。指導していたのがハザマ初代教場長鈴木精成現会長です。初級から奥伝に至るまで指導有難うございます。毎月一回教場の生徒に吟の指導者として活動していることが喜びでもあり楽しみでもあります。

新型コロナ禍の中、対面での開催が困難な時期ですが、努力を重ねて毎月開催したいと思っています。今後読み方、節調に磨きをかけて次に向かって行きたいと思っています。

準師範合格者

準師範を受けて

丸の内支部教場 前田 春山

この度、準師範の資格を頂くことになりました。入会以来お世話になった教場長をはじめ諸先生に心より感謝申し上げます。

この審査を機に、改めて宗家令和四年指標「楽しみをなす」を噛みしめております。コロナ禍にあっても感染対策をしながら、吟を学び楽しく語り合うことによって、私の人間らしい生活が保たれました。吟友の有難さが身に沁みました。正に「人間はみな兄弟のようなもので骨肉にこだわる必要はない、嬉しい時は一緒に楽しもう」ということだと思えます。

これからも、吟友の絆を大切にしながら、吟力の向上に努めて参りたいと思います。

詩吟に参加して

神楽坂教場 與座 美山

私は神楽坂教場に入会しましたが新人の時、月曜会、千吟会、詩歌研修会、コンダクター研修会そして、東陽町支部教場に出席させて頂きましたので良かったと思います。他の教場の方から声をかけて頂き、又お話をする機会がありましたので吟を続けられたと思っています。

当初、吟友は言葉として受け止めていましたが、今は共に詩吟が出来るのを良かったと思っています。

また、今回の試験には吟題、作者、吟譜が出ました。できるだけ視野を広げていかなければと思えました。私はまだまだ上手く出来ないところが多々あります、先生方にご指導いただきながらそれなりに吟が出来る様になりたいと思っています。



中伝準師範試験を終えて

ミモザ世田谷教場副教場長 土居 佳山

この度、準師範資格を頂き感謝申し上げます。年齢と共に試験や面接など縁遠くなる日々、久しぶりにワクワク、ドキドキの緊張感を体験させて頂きました。

カレンダーを見ると、ゴミ出し、歯科受診、仕事の出勤日がチラホラ、地味な予定ばかりでしたが、今は詩吟関連の予定で賑やかになりました。

先日「胡隠君を尋ぬ」を素読していると、何時も会話の少ない中学生の男の孫が「あれ！それ学校で習っている」と共通の話題で盛り上がりました。詩吟のお陰です、嬉しくなりました。

みもざ世田谷教場、行くのが楽しみです。これからは研修などにも積極的に参加、一層努力していきたいと思っています。有難うございました。

準師範試験を終えて

丸の内支部教場 坪川 稔山

準師範試験を受けるにあたり、習得手帳の入会時から直近まで、吟題と作者名を暦日順に一覧にしたいと思い立ちました。表計算ソフトで毎日少しずつ入力です。目は疲れ、肩は凝る、根気が切れそうでした。今回、漸くやり残した事案を終えることが出来ました。

「春を探る」(戴益)が入会時の吟、振り返ってみれば、達磨大師面壁九年と同年数の吟縁となります。コロナ禍で稽古日が極端に少なかった令和

二年(三月、六月全休)、病と闘い続けた時期もありました。節目として感慨深い特別な思い出もあります。

今後は自主性を胸に納め、吟の極致「真善美」を体現すべく精進して参りたいと思っております。「コロナ禍尽きて楽しみ来る」を切に願いつつ。

準師範を頂いて

新陵教場 青木 憲山

平成二十六年、学生時代より四十一年のブランクを経て詩吟を再開しました。当初全く声が出ず、こんな筈ではなかったと情けなく思ったものでした。あれから八年、この度、準師範を認可され大変喜んでおります。この数年は節調も勿論大事ですが、特にしっかりと発声に努力しています。声だけは一朝一夕に伸びません。数日吟じないだけで元に戻ってしまいます。コロナ禍で、自宅で中々思い切り発声が出来ないので、近所迷惑はご勘弁頂いて一日一吟は続けていく積りです。又、声がしっかりと出れば節調も诗情もより自在になると思います。やはり詩吟にとっても「継続は力なり」を信じて進んで行きたいと思えます。

準師範試験を受けて

ハザマ支部教場 神田 恒山

千代田岳精会に入会して九年になりました。詩吟の難しさに一時は挫折しそうになりましたが教室では皆様に励まされ楽しいので休まず続け

られました。回を重ねる毎に吟の奥深さに感動しています、楽しんでおります。

この度、準師範試験を受けるようにと声をかけて頂き奥伝もまだなのにと納得もいかぬまま受験いたしました、不安でした。

八田先生よりお手紙と原稿用紙が届き、合格を知りました。安堵して嬉しきで一杯です。

ハザマの皆様はじめ会の先輩方に感謝いたします。「時に及んで当に勉勵すべし」陶潜の「勸学」転句ですが私も充実したく努力を重ねていきます。共に学び楽しみたいと思います。今迄通りご指導を受け精進いたす所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

中伝準師範を拝受

みなとみらい教場副教場長 滋野 彦山

厚く感謝しておりますと共に、その責任の重さを感じております。

私は平成二十七年に入門させて頂き吟歴八年になります。吟につきましては全く無知でありましたが、ここまで学ばせて頂き新しい楽しい世界が広がりました。当初新陵教場に入門し、みなとみらい教場で学んでおります。最初から鈴木会長のご指導を賜り、先生のその真剣なご指導の姿に感銘を受け、また諸先輩の方々にも色々ご指導を頂き今日に至っております。

コロナの状況も厳しい状況ですが、吟の仲間を増やし宗家横山先生のご指導の「作楽」の世界を求めて行きたいと願っております。

中伝準師範試験に合格して

中野教場 金井 俊山

今回の昇伝審査で標記の試験に合格を頂きました。教場で様々な方のご指導のお陰と感謝しております。

私どもの教場は会社のOBも多いことから、和気藹々の中で楽しく学んでおります。特に漢詩に込められた作品の背景等を勉強出来ることが楽しく、会社人生では味わえなかったことを経験出来ており、これからも大切にしたいと考えております。私をこの会に誘って下さり、一昨年亡くなられた故村上精道顧問に感謝しております。村上さんを目指して今後も精進しようと考えています。

年男・年女

今年の干支は癸卯（みずのと・う）です。



もう一つの干支

東陽町ブロック長 宮野 秀風

七回目の年男になりました。

昨年一月、声帯に違和感があり声が出なくなりまして。医者診断では声帯にポリープが出来てお

り、治療は出来る限り声を出さず、無言の行をとの指示でした。毎月の内視鏡による診察では四カ月ポリープには何の変化も有りませんでした。

吟詠が出来ず治る当ても無く此の俛で詩吟生活はお終いかと考えたりしました。声を出さないで居ると身体に力が入らないことも自覚する様になりました。

半年経過した時、喉が軽くなり医者の診断でもポリープが消滅したとの診断でした。医者からはもう二度と来ないで下さいとの別れの言葉でした。詩吟を始めて十二年が過ぎ去りました。

今年詩吟人生二度目の年男となりました。

詩吟を学び楽しんで

草加教場 小林 龍真

千代田岳精会に転籍して十余年、鈴木会長始め岩崎先生、諸先生方のご指導の下、詩吟を楽しんで今日まで来ました。コロナ禍にありながら令和四年は全国吟道大会が開催され、女子部主催の宗嗣先生の研修会等沢山の行事に参加させて頂きました。そして十月二十八日には「千代田創立三十五周年の集い」が開催され大勢の吟友にお会いでき喜び一杯です。

私の所属は草加・金町です、毎月のように多数の新人さんが入会されて教室は活気に満ち、太田先生、中内先生の下、熱心に勉強する姿に圧倒されます。当年八十四歳になる自分に叱咤激励して出来る限り詩吟を学び楽しんでいきたいと念じています。どうぞ宜しくお願いします。

年男に寄せて

中野教場副教場長 小蔦正風

昭和十四年生まれの戦中、戦後を体験しつつも戦後世代と言われた世代で、令和五年が還暦後二度目の年男ということになる。

詩吟との出会いは偶然にも十二年前のことであつた。高校時代の漢文で先生が時々吟じていた吟詠の記憶から、自分も吟じてみたいと社友OB仲間を中心にした詩吟の会に入会し、今はどっぷり浸かってしまっている。

老後生活の中で他に絵画、水泳との出会いもあり、改めて継続からの貴重な財産になっていると思う。

七〇代の頃は夫婦旅行などを主に楽しんでいたが気力・体力が衰えてきた八〇歳を超えた今は近くの街並みを歩く散歩や日々の買い物などが元気の素、楽しみになっている。七度目の年男（八十四歳）を過ぎても、ゆったりとした静かな生活を二人で共に一日も長く続けていきたいと思う。

青春とは心のもちょう

調布教場 中根 三山

姉に誘われて調布教場にお世話になったのは平成二十六年でした。それまで他の流派の家に直接教えて頂いていたのですが亡くなられて迷っていたこともあって、そのまま岳精流の人となりました。節調の違いに戸惑いながら十年が経ちました。いま六段を戴いたので一休みです。しつ

かり休んでステップアップに備えられればよいと思っております。

ところで岳精会の皆さんはよく勉強されますね。ズーム研修会に参加してつくづく感じます。私は無理せずマイペースで楽しみます。アメリカの実業家で詩人のサムエル・ウルマンが青春についてこんな風に言っています。―青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方を言う、年を重ねただけで人は老いない、理想を失うとき初めて老いる―詩吟を友として青春を謳歌しましょう。

一緒に。

吟声の充実

新陵教場 能島 浄泉

明けましておめでとうございます。入会して七年目の新年を迎えます。

今年は癸卯年で「これまでの努力が花開き、実り始める縁起の良い年」と言われています。努力のし甲斐のある年に鑑み「吟声の充実」を目標に致します。

日本詩吟学院の吟道奥義抄によれば吟詠の修得の一つに「姿勢を正し、肉眼を閉じ、心眼を開いて、呼吸を深く、喉のみ気張らず自由にして、丹田力を活用して吟ずること」とあります。ともすれば節回しに心を奪われ、そこを真似しようとして、本末を誤る傾向があるからです。また同奥義抄には「声十年」と修得には年数がかかります。なかなか日々の練習とまではいきませんが、数多くの発声練習と先生、先輩の立派な吟詠に接す

ることで癸卯年の吟詠を全うしていききたい所存です。

新たな出発

表参道教場 楯 香津美

徳本龍治先生にご指導頂き、表参道教場が開設しましたのは令和二年秋でした。丁度コロナウイルス感染が拡大し始めた頃でして、当初は教場も休会の連続でしたが、令和三年からマスクを使用しての開催が本格的に始まりました。

教場は、青山学院に隣接したアイビーホールの一角です。表参道教場の特徴、青山学院関係者と女性陣が多いという点です。特に女性陣は進歩も早く、私たち男性陣の憧れの的でもあります。

私は今年で七十二歳の年男になりますが、好きだったカラオケよりも詩吟の魅力に魅せられています。これからも徳本先生のご指導の下、練習を続けていきたいと思えます。

次の年女まで

桜ヶ丘 榎田 喜泉

実感はありませんが七十二歳という年齢を迎えるにあたり、これからも人生穏やかに年を重ねていけたらと思います。

詩吟に出会うまではこれといった趣味もなく、老後の生活を豊かに過ごす為に何か始めなければと考えていた所、友人に誘われ詩吟に出会うことができました。大きな声を出すことにより日頃

のストレス解消にもなり、気管支が弱く咳き込むことが多かった私ですが、詩吟の腹式呼吸と大きな声を出すことの鍛錬によって、それらのことを解消することが出来て大変感謝しております。

東北生まれの私は、アクセントが直らず笠教場長には多大なアドバイスを受けながら四苦八苦しておりますが次の年女まで健康に気を配り、日々楽しく過ごせる様に努力していかなければと改めて考えております。

【新会員紹介】

◇金町教場

高林 美代子さん（十一月入会）

千代田のホームページを見て草加、金町教場どちらも近いとのことでお電話下さいました。吟経験ありで見学に見えた時から素晴らしいお声で吟じられ、皆さん驚きとても感動しました。何よりも岳精流の節調が好きと言われ嬉しい限りです。吟に対して積極的に取り組まれる姿勢には感心致しております。明るく社交的でまだまだお若く今後のご活躍を期待しております。

◇桜ヶ丘教場

辺見 眞三氏（六月入会）

多摩市弘報で岳精流詩吟の会を知り電話したところ、快く体験会の誘いを受け体験致しましたが一年前の咽頭癌の手術後で声が出ず思案していましたが、リハビリのつもりでやってみては？と入会、多摩市転居一年六か月の新参者です。宜しくご指導お願いします。五〇年前、

岳神流眞山でした。

吉村 宇太磨氏（八月入会）

笠教場長とは職場の友人でお誘いを受けました。カラオケでは自信があるのですが、全く声の出し方が違うことが判りうまくやっついてけるか不安とストレスを感じるばかりです。果たして今後どうなっていくか、自分も期待です。

◇清流教場

山田 滋氏（十月入会）

この度、縁がありまして岳精会に入門をさせて頂きました。元来、音痴な私が詩を吟じたいと奮起しましたのは呼吸法を学び、衰えた体調を整えたいとの一念でした。入門後、会の「真善美」に感動しました。よろしくご指導下さい。

◇志茂教場

佐竹 洸子さん（一月入会）

昨年十二月、縁あって志茂教場の見学をさせて頂きました。そこで初めて接した詩が菅茶山の「冬夜書を読む」でした。先ずその詩の内容に感動し、吟譜がわかれば謡えることを知って入会させて頂くことにいたしました。宜しくお願ひいたします。

令和四年ご入会者（十四名）

一月 大日方修二氏（神田）

佐竹 洸子さん（志茂）

二月 吉田 帰命氏（桜ヶ丘）

三月 玉木 賢明氏（丸の内支部）

四月 小川 知子さん（桜ヶ丘）

六月 辺見 眞三氏（桜ヶ丘）

七月 中川 史郎氏（金町）

川村 敏宗氏（鎌倉）

八月 吉村宇太磨氏（桜ヶ丘）

土屋 陽子さん（新宿支部）

十月 山田 滋氏（清流）

十一月 高林美代子さん（金町）

中井ミサ子さん（用賀）

十二月 佐伯 美由さん（用賀）

訃報

◆横手 英泉氏（新宿第二教場）

令和四年九月七日逝去されました。

享年八十四歳、平成二十二年入会。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆黒澤 勇泉氏（清流教場・休会中）

令和四年十月十八日逝去されました。

享年八十五歳、平成二十四年入会。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆二井内壽風氏（ハザマ支部教場）

令和四年十一月十二日逝去されました。

享年八十六歳、平成十六年入会。

慎んでご冥福をお祈りいたします。



編集後記

コロナ感染が続きますが、ワクチン、治療法や薬の開発が進み発生時の不気味な恐怖状態とは対応も異なっています。「千代田創立三十五周年の集い」も一年遅れで事故なく開催できました。企画委員十六名、実行委員五十七名が難しい状況下で取り組まれ、会員全員の力が見事に結実した成果でした。登壇の会員も吟じたい吟、難しい律詩や新体詩などを喜々として吟じる姿がありました。集いの開会の言葉で山口副会長が述べたように、この三年間で百名近い会員が逝去、体調等で退会となっておりませんが、対面の研修や教場も予防策を講じながら開催出来ています。やはり集い吟じる楽しさは我々にとつて至福のかけがえのない時と思えます。

平成十二年五月、入会三年目で飯田精鷹初代会長から広報紙「ちよだ」の担当を命じられ手探り状態で8号を編集、沢山の会員に投稿して頂き相互交流を深めることをモットーに今号まで編集してまいりました。鈴木精成会長のリーダーシップで会員も百三十名から最大三百三十名まで増加、岳精流随一の会に成長しました。モノクロ世代で技術革新に従っていけず、早々に引き継ぐべきところ仲間との時間が楽しく、今年米寿を迎える老兵、迷惑をかけ続けたと思います。支えて下さった先輩、吟友の皆さん有難うございました。次号から和田之山リーダーが担当となります。

（八田 龍仁）